

| | | |
|------------------------|----------------------|---|
| 長野高校 2 学年 SGH 通信 | かかわ 五世界に繋る | 金鵒ファイルに保存 第 15 号 (通算 41 号) 2016 年 10 月 11 日 (火) |
|------------------------|----------------------|---|

10月11日(火)12日(水) 2 学年総合の時間 について

- ・最初の 15 分でスライドの手直しなど発表できる準備をしてください。
- ・その後、発表までに教室の移動などを終えておくこと。
- ・裏面のようなスケジュールで、先生方が各教室に来る予定です。
- ・時間になっても、班担当の先生が来ない場合は、研究室へ行き班担当の先生の都合を伺ってください。
- ・空いている時間はpptの手直しや友人同士でのプレゼン、担任などあいている先生に見てもらってください。
- ・HR 教室でプレゼンをする班は、USB にpptファイルを移し、班ごとに LL 教室から PC を持って各会場に移動すること。プレゼンリハーサル会場で作業を行う。
- ・リハーサルがすべて終了したら、最終版のスライド(p p t)を LL 教室で①当日の分散会パソコン ②全体会パソコン の 2 台のデスクトップに保存しておくこと。
- ・当日は Wifi 環境でないため、USB に保存して各 PC に入れる。
- ・発表会当日は念のため、分散会、全体会会場に USB を持参する。

《確認》

- ・pptの表紙(スライド 1 枚目)に「班名」「班員名」「テーマ」「班担当の先生の名前」は入っていますか？
- ・「アイコンタクト」とっていますか？
原稿はあくまでプレゼンテーションの内容をまとめるための手段
“原稿の朗読≠プレゼンテーション”
* 昨年の課題研究発表会で「原稿を読み上げているのは良くない」という意見が多くありました。聴衆として参加していてそう感じた人も多かったのではないですか？ 目を見るのが苦手な人は眉間を見ましょう。相手は目を見られているように感じます。「評価シート」でも「原稿を読み上げており」は減点ポイントです。
- ・当日の審査は「評価シート」に従って審査します。もう一度自分たちのプレゼンテーションを評価シートに沿って振り返ってみましょう。

自分の知らない世界

2 年

私は夏休みの一週間、信濃毎日新聞の第五回学生記者として中高生二十人でアメリカに行ってきました。私は中三の時に学生記者が書いた記事を読み、幅広い世代の人に様々な考えを聞くという活動に興味を持ちました。また、見知らぬ人に英語で取材をするということにより、自分の英語力や度胸を試したいと思い、挑戦しました。

私たちはワシントンとボストンに滞在し、9,11 記念博物館などの様々な博物館、連邦議会議事堂、ヤンキースタジアム、国連などを訪れて取材活動をしました。特に印象に残っているのはガールスカウトとの交流会です。彼女たちはとてもフレンドリーだったので、折り鶴を一緒に折ったりするうちにすぐに仲良くなれました。5, 6 人のグループになって「大統領や首相になったら、何を第一の政策にするか」をディスカッションする時間がありました。グループで話す時に、難しい話題にもかかわらず考えをしっかりと主張していて皆自分に自信を持っているようでした。彼女たちだけでなく、アメリカの人たちは私たちよりも自信を持っていると感じました。私も見習っていきたいと思いました。

取材をする、というのは初めてだったので不安もありましたが、随行の記者の方、先生方、現地のコーディネーターの方など多くの方が取材内容や取材の仕方を指導してください、楽しんで活動できました。最初はおそろおそろ声をかけていたのが慣れてくると堂々と取材できるようになりました。国連についての質問でドイツ人の女性は「長期的に様々な問題を解決するためには常任理事国を固定するべき」と話してくれました。これは思いもしない答えでした。人によって全く考えが違ったり、自分が考えもしなかったような意見があったりと新たな発見がたくさんありました。英語は話すより聞き取りが大変で、わからないときは紙に書いてもらうようにしました。

今回の経験で、取材に答えてくれた方々、個性豊かな学生記者の仲間などとの出会いで様々な考えに触れ、自分が知らない世界がたくさんあると改めて思いました。これを生かし、これからの生活の中で自分の考えをもって興味のあることに挑戦していこうと思います。

このような企画は中々ないので、あきらめずに挑戦して本当に貴重な体験になったと思います。



異なる立場を尊重する

長野高2年・長野市

「安全保障理事会の常任理事国に強大な力が集中していると思うか」。私の質問に、ドイツ人で教師のジュリアさん(29)は「イエス」と答えた。「でも変える必要はない。長期的に問題を解決するためには、常任理事国は固定しておくべきだ」と続けた。思いもしない答えだった。

国連の存在意義は何か。5カ国が拒否権を持つ安全保障理事会は時代に合っていないのではないか。私は国連について以前から抱く疑問を来国で出会った人に投げ掛けた。ジュリアさんの考えには驚く

半面、明快な説明に納得もし、自分の考えが揺らいだ。共同通信社の坂本泰幸ワシントン支局長の言葉が心に残る。「時代に応じて常任理事国を変えることも必要だ」と思う。だが難しいだろう。置かれた状況により加盟各国の考えが異なるから」

異なる立場、異なる意見があるからこそ、国連の役割は難しく、かけがえがない。世界平和のために私たちができることも、まずは思い込みをなくし、異なる立場があることを知り、尊重することだと思つた。